

令和3年度 学校自己評価（職員年度末評価）今年度の成果と反省・来年度への課題

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
1 学校 づくり	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育および5期SSHのプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	【新たな取組】 ・新設SSH科目「データサイエンス」「国際情報」の実施 ・台湾の高校とのオンライン交流（「国際情報」で実施） 台北市立和平高級中学 台北市私立幼華高級中等学校 私立新民高級中学 台北市私立稻江高級護理事業職業学校(女子校) ・「SSHミニフォーラム」の実施(リベラルアーツを意識した取組 希望者20名程度) 第1回5/25(火)「SDGs」 第2回7/20(火)「考古学」 第3回9/27(火)「健康」 第4回11/2(火)「SDGs」 ・「科学に親しむ教室」の実施(地域貢献のための取組) 7/29(木) 屋代公民館(小学校低学年) 8/5(木) 屋代公民館・埴生公民館(小学校高学年) ・「坂城中学とのサイエンス交流会」の実施(地域交流) 12/8(水) 2年理数科9名参加 ・海外校とのオンライン交流(高3理数科9名参加) 8/26(木) オーストラリアWenona高校	・ほぼ、第5期の計画通り実施できている。 ・データサイエンスの講義では、iPadで使用するソフトの準備に不備があり、タイムロスになってしまった。来年度は使用するソフトについて確認をして実施したい。 ・地域交流を目的に実施した「科学に親しむ教室」や「サイエンス交流会」は地域にとっても、高校生にとっても良い経験や交流の場となっており、今後も継続していきたい。 ・「国際情報」での海外校とのオンライン交流は、生徒からも好評であった。改善しながらよりよい事業にしていきたい。					81.9
		【例年の取組】 ・SSH科目「グローバルサイエンス」「アカデミックサイエンス」での特別講義の実施 ・探究活動の実施「科学リテラシー」「一人一研究」「課題探究(普通科)」「課題研究(理数科)」 8/28「課題探究中間発表会」(高2) ・第36回 SSHサイエンスフォーラム5/11(火) テーマ「ロボットと共生する未来社会」 ・8/3～4「つくばサイエンスツアー」 ・「ウニの発生観察教室」(地域交流) 12/25(土) 小学生7名参加 ・第37回 SSHサイエンスフォーラム 3月4日(金)予定 テーマ「ダーウィンの冒険」東北大学特任教授 渡辺 政隆氏 ・各種科学コンテストへの参加 ・1/26「バイオサイエンス講演会」(中2)	・月2時間の探究時間をどう活用していくか検討していく必要がある。また、探究活動を通して生徒を育成していくという認識を、職員全員が持つことが重要である。生徒任せにしているだけではお互いに成長しない。 ・普段の授業を探究活動と結び付けられないか？授業の中から、探究のテーマが設定できると良い。 ・探究活動における評価など、SSH事業における評価方法を検討して実施したい。(5期申請の内容に沿った形で実施) ・年1回は少ないように感じる・活動のある内容があってもよい。(中2) ・SSH・自然科学に関心が高い生徒も多い。可能であれば、機会が増えるとよい。(中1)	24	35	6		
		月に1回程度(年8回)のオンライン・探究学習日を設けた。(中学) 高校進学に向けた面談、中学校生活のふり返り(中3) 10/18～20「京都・奈良 修学旅行」(中3) 10/25～27「北陸研修旅行」(中2)	反転学習や校外学習などオンライン授業の充実を図ることができた。 午後の探究学習の時間を充実させる取組が必要。(中学) 高校での生活について、日常のSHRで伝えてきた。生徒の後期末のふり返りからも高校進学に向けた意識づけができたと思う。(中3) コロナ禍であったが感染対策を十分に取り、修学旅行を実施することができた。(中3) 北陸研修旅行を通じて、アポイントとり方、名刺づくり、応対、挨拶の仕方などを学習した。講師などをお呼びして、職業体験的な学種を取り入れても良いかと思う。(中2)					
		4月「BYOD」一人一台端末の先行実施。(情報・高1) 7月「進学型単位制」導入の決定。(教務) 8月・9月・2月コロナウイルス感染拡大による「オンライン授業」の実施。(中1～高2)	BYODの実施は昨年度から準備を進めたため、他校に先駆けて導入や運用ができた。選択科目の選定や類型の設定など、新たな学びの枠組みを具体化していく必要がある。生徒への事前指導や職員の授業体制がスムーズにできたため、混乱なく運用ができた。ICT機器の活用を日常の学校生活の中でどう位置づけていくのか、まだまだ検討を重ねていく必要がある。 コロナウイルス感染拡大期の「オンライン授業」の実施は、集団感染リスクや休校リスクを回避し、計画通りに学習を進めることに大きく貢献した。					

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				年度末指標
				A	B	C	D	
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	夏期休業中「夏季補習」を6日間実施。学習合宿の代わりとして同様の日程で「学校学習」を3日間実施。(高3) 従来の指導体制に基づき、補習(朝、放課後、土曜)・特編授業・模試準備や復習の徹底等に取り組み、基本的な生活習慣の確立等、生徒の意識付けにも腐心した。(高3)	全体としては例年通りであったと思うが、コロナ禍も影響したと思うが、特編の欠席数が例年以上におおかった。学年全体、学校全体として考えていく必要がある。(高3)	25	36	4	83.1
			6月「文理別キャリア講演会」9月「屋代ミニ大学(オンライン)」等の企画を計画実施。(高2)	コロナ禍のためオープンキャンパスなどで大学を見学することが思うようにできないため、さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。(高2) 共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(高2)				
			夏休み「キャリアガイダンス」を実施。6月・9月「キャリア講演会」を実施。(高1) キャリア講演会を1回実施、また職業レポートと文理選択レポートをとおして、文理選択や進路希望を考えるきっかけ作りとした。(高1)	社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。 目標が明確に定まっている生徒と、全く見通しが立っていない生徒の差が大きい。勉強のモチベーションを高める意味でも、早めの進路の意識付けをしていきたい。(高1)				
			5/26「職員進路研修会①」実施 2/8「職員進路研修会②」実施	「研修会①」では昨年度の進路結果やキャリア教育指導のノウハウを共有することができた。それを基に今年度のキャリア教育の指導体制について確認することができた。「研修会②」で今年度の具体的な入試動向について情報収集や分析を行い、来年度以降の学習指導に生かせるように職員間で情報共有ができた。				
	キャリア教育	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	7月「保護者懇談会」の実施。週1回程度「学年通信」の発行。(全学年)	学年通信は保護者にもメールで直接発信する形をとり、保護者へ確実に必要な情報が伝わるようになった。更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。(全学年)	24	39	2	83.5
			月1回程度「学年集会」実施。(高3) 節目節目で学年集会を開いてキャリア担当より話し、意識向上に努めた。また学年通信、進路室たより等で必要な情報を提供した。(高3)					
			保護者向けにはオンラインによる科目選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、志望学部の入試科目と3年次の選択科目を研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高2)					
			保護者向けにはオンラインによる文理選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、文理選択について研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高1)	今年度はオープンキャンパス等もほぼオンラインであったため、コロナが落ち着いたら大学のキャンパスにリアルに行くことをすすめたい。(高1)				
	キャリア教育	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	進路情報の掲示。年3回「先輩の話を聞く会」を実施。(中学) 「卒業生の紹介」を4回実施。(中3) 進路情報の資料掲示、大学見学、高校入試模試の実施(中3)	「先輩の話を聞く会」では、オンラインで海外からの配信もあり、進路決定に向け、特徴のある話を聞いた。成功体験だけでなく失敗から学んだ例も挙げていきたい。(中学) 県内の中学生の中でどの位置にいるか意識させたりすることができた。大学での学びの見通しを持たせることができた。(中3)	25	39	1	84.2
			「学年通信」の活用。「学年集会」の実施。「進路講演会」や「オープンキャンパス」の活用。 「模試」「定期考査」結果の活用。(全学年) 「キャリア教育係会」「学年会」「教科会」による職員間での情報共有。 科目を減らさず、5-7型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3) 生徒には学年集会や科目選択説明会を通じて志望校や学部を研究させた。教員側は各教科の指導の取り組み情報や考査毎の成績情報を学年で共有し指導に活用した。共通テストに実際にチャレンジすることで、今後つけるべき力を確認させた。(高2) 学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通じて、大学や入試について、知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)	例年と同様に、最後まで粘り強く学習にと組み88%の生徒が5-7,8型で受験を行った。(高3) 来年度以降も科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導を継続したい。(全体) 学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。各教科の学力をバランス良くつづけるために、教科間の連携や調整が一層必要となる。(高2) 学年集会や文理選択説明会等の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。(高1)				
			立志館事業として「特別講座」(数学・英語各16回を計画)を同窓会館で延べ28回実施。 8月「夏休み学習会」の実施。9月「テスト前質問講座」「学習会」の実施。 学力保障への取組(外部人材を利用した特別講座・高校生も参加の学習会)の実施。 水曜日の放課後に「CSS」を開設。(中学) 朝学習、単元テストの追試(中3) 教科ごとに学習プリントを置き、家庭学習の充実を促した。単元テストを定期的に行い、基礎学力の定着に努めた。(中1)	参加してほしい生徒の参加率を向上させるための手立てが必要である。 講師の確保と謝礼(支出と所得税)の対応が必要。(中学) 単元テストでの追試や朝学習等を通して、基本的な学力の定着に努めることができた。(中3) 家庭学習の様子への把握が不十分であった。細やかな確認と支援を心掛けたい。(中1)				

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				年度末指標
				A	B	C	D	
2	キャリア教育	<p>学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。</p> <p>6月・10月・1月「個別面談」の実施(全学年) 目的別補習授業の実施。各教科・科目において希望生徒への個別指導の実施。(高3) 「模試」の実施 15回(高3・希望者模試含む) 4回(高2) 3回(高1) 「定期考査」の実施 6月・9月・11月・2月(高校) 9月・2月(中学)</p>	<p>定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。生徒の精神的な部分も支援しつつ、学力の伸張を図ることができた。(高3) 各考査の結果、及び年間を通じての個人面談により集団と個々への指導を繰り返した。(高1,2) 各成績層に合わせた「学習内容」を充実させていく必要がある。(全学年) 学力推移調査や高校入試模試の結果をふまえて面談をすることができた。(中3)</p>	20	28	7	80.9	
		<p>4月「スタディサポート」実施。(高1・2) 4月・9月・1月「学力推移調査」実施。「通知表」のほかに「テスト成績表(年2回)」や「学びの軌跡(年4回)」を発行。アセスの実施。(中学)</p>	<p>各考査の成績やスタディサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高2・高1) 定期的に学習状況を振り返ることができる通知を発行できるようにした。学力不振の生徒への支援を個人面談や補習等で充実させたい。(中学)</p>					
3	教科指導・授業改善	「校内授業公開」実施 6月8日～19日 「校内オンライン授業公開」1月31日～2月4日	ICT機器の活用法を中心に授業の工夫を共有・コロナ禍でのALの進め方をさらに追究	19	34	11	1	77.3
		「カリキュラム研究のための職員研修会」開催 4月28日・6月9日・10月27日	6年間一貫カリキュラムマップの作成、共有・観点別評価の試行とそれを生かしたシラバス作成					
		「授業充実のためのアンケート」実施 9月・2月	生徒の授業満足度が高いことを確認・教科、学年、項目によるバラツキの改善					
		<p>科学リテラシー「卒業研究」「修学旅行に向けた探究学習」「卒業探究学習」(中3) 「棚田学習」「校外課題探究学習」「北陸研修旅行に向けた探究学習」の実施(中2) 「長野市探索」「千曲市探索」の実施(中1) 校外からのオンライン授業の実施(中学) オンライン探究学習日、各公開授業(中学)</p>	<p>高校での「課題探究」へのつながりを意識して進めてきた。各自の卒業研究が完成するよう支援していきたい。(中3) 校外からのオンライン授業は、授業後に現地を訪れて、さらに追究する生徒もいた。これからも大切にしていきたい。(中学) ICT機器を有効活用する方法を相談したり、公開授業での外部からの意見を参考にしたりして授業改善に努めた。(中学) 総合的な学習の時間、LHR、道徳は、学年全職員で対応している。(中2)</p>					
<p>4月・6月・9月・2月「職員ICT研修会」実施。 11月・12月「ICT研修公開授業」実施。</p>	<p>「ロイノート」の使い方・オンライン授業の事例紹介・他県の実践紹介など、様々な形で職員にICTでの学びに関する情報を提供できた。 公開授業では、本校のICT用いた授業を来校した他校の職員に公開した。</p>							

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				年度末指標					
				A	B	C	D						
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	4月「交通安全教室」実施(中1・高1) 5月「生活安全講話」「交通安全講話」実施(全校) 7月「性被害防止キャラバン」(高1) 5月・7月・9月・11月「交通安全該当指導」実施(職員) 下校時刻と電車乗車時刻の設定。下校時刻の徹底を職員団で協力して行った。(中学)	例年に比べて交通事故の件数が減少した。「交通安全講話」は長野県警とお笑いコンビ「こてつ」がコラボレーションをした。生徒にも概ね好評であった。 駆け込み乗車にならないよう下校時刻と乗車時刻を合わせて下校させた。(中学)	25	38	2	83.8					
		いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	9月「携帯電話の所持」を許可、実験的に実施。 通学時の安全確保のための携帯電話持ち込み許可。 長期休み前後「登下校指導」を実施。(中学)	携帯電話の持込についてはトラブル無く利用できている。引き続き使い方の指導を徹底していきたい。(中学)	16	42	7		78.5				
	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	スクールカウンセラーによる「カウンセリング」年間38日実施。 「個別支援会議」の実施。外部機関との連携。 「長期欠席」等の生徒や家庭への継続的な支援。(中3) 全員との個人面談の設定。「ぼくノート」の実施。生徒の思い等を自由に表記させる。(中2)	担任やスクールカウンセラー・外部機関と連携し、生徒個別の状況に応じた支援を行うことができた。引き続き、適切できめ細やかな支援をし、生徒や保護者に寄り添う支援をしていきたい。 前期と同様に連絡をこまめにとって支援するとともに、高校進学に向けて指導していきたい。(中3)				28		33	4	84.2	
		人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	各学年(2回)のスクリーニングの実施。アセスの実施。個別の家庭訪問、支援会議の実施。(中学) 夏休みを利用した、支援会議の準備。(中学) SHR時「今日のMVP」(友の良さ)を紹介。「性教育」についての講演。(中2) 福祉体験・ポッチャ体験・パラオリンピック選手の講演会(中2) 9/16 職員研修会「思春期の精神保健～思春期の精神疾患の理解と学校に求められる支援～」(福家知則医師)を実施 11/5人権教育講演会「不安の対処とメカニズムについて」(信州大学 高橋史氏)をオンラインで実施 1/27人権HR「LGBTQ(性的マイノリティ)への理解を深める」				スクリーニングについては、SC、SSWも交え手立てを考え支援ができた。(中学) 生徒一人一人、保護者と連絡を密に取りながら支援するよう努めた。(中学) 申し出は一つも出なかったが、今後も継続的に声かけは必要である。(中学) 後期は自分に返す活動をしていきたい。(中2) 行事、各教科の学習の中で人権教育を進めてきた。前期に引き続き、行事、各教科の学習の中に位置づけていきたい。(中3) 学年集会等で全体でいじめ、暴力をしないよう指導したり、気になる生徒をアンテナを高くして見ていきたい。(中学) 「性教育」についての講演では、多様な「性」を認めることを考えるきっかけとなった。(中2) 職員研修会は困難を抱えた生徒に対する理解が深まる研修になった。 人権教育講演会はオンラインでの開催となったが、生徒がリアルタイムで参加できる形式だったため、生徒の評判も良く、有意義な講演会になった。 来年度も社会の状況を見ながら、様々な形で企画をしていきたい。		17	39		8
	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらったか。	4月「学校要覧」作成。5月「第1回授業公開」実施。6月「中学校説明会」実施。「学校案内パンフレット」作成。7月「中学生体験入学」実施。10月「中学入学者選抜説明会」「高校説明会」実施。「ホームページ」週1回程度の更新。屋代高校前駅ホーム「屋高の窓」月1回程度の更新。 5/31～6/4「授業参観week」実施。「学年通信」による日々の学びの紹介。(中学) 卒業研究、総合的な学習の時間(中3) 5/22「PTA総会」動画配信(PTA)	保護者に、学校だけでなく学年からもメールを一斉送信できるように整備をした。コロナ禍のため、屋代高校に直接足を運んでもらう機会を取りにくいので、情報発信を頻繁に行い、学校の取組や様子を地域に幅広く伝えていきたい。 地域の方と卒業研究の内容を深めたり、総合的な学習の時間に地域の小学校と交流したりした。(中3) オンライン学習中の計画・成果を保護者に見てもらおうよう協力をお願いした。(中1) PTA役員の皆様の協力や先生方の協力もあり、無事、録画配信ができた。				23		37	5	81.9	

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				年度末指標
				A	B	C	D	
生徒会	質実剛健の気風を大切に して、執行部と各会員が一体 となった自主活動のための 指導支援ができたか。	4月・8月「携帯電話所持を考えるチーム会議」への参加。 本部役員が全校生徒の活動を昼休みに紹介。 今年度から全員が生徒会に参加し活動するように組織を変更。(中学) 12月中学生徒会選挙。中学生生徒会の引継ぎに向けて、LHRや学年集会で考えた。(中2)	「携帯電話の所持」については全校の活動であることを広めていき、様々な立場から幅広く議論をしていきたい。 役員以外の会員の意見を集めながら運営できた。 引継ぎなどの機会を大切に支援していきたい。特定の委員会に負担が偏らないように配慮したい。(中学) 全生徒が生徒会に所属する2年目となるので、各委員会で活動内容などを精選して実施していきたい。(中学) 委員会の活動が十分に充実したものにならないものがあった。活動内容の確認をし、自主的な活動となるようにしたい。(中学)	24	36	5	82.3	
		4月・5月「生徒総会」2回開催(オンライン) 4月「一斉委員会」開催 週1回「定例役員会」を開催。行事ごとに必要に応じて各委員会ごとに「臨時委員会」を開催。 「班長会」5回「班室清掃」3回実施。 生徒会選挙後第66期役員選出、一斉委員会1回開催、週1回定例役員会を開催。必要に応じて各委員会ごとに臨時委員会を開き、生徒の自主的活動を支援できた。 班長会3回、班室清掃4回行い、班活動の活性化を支援した。	コロナ禍で工夫をしながら生徒の自主的活動を支援できた。班活動は活動の自粛期間が断続的にある中で、安全な活動に向けての指導と班活動の活性化を支援した。引き続き中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。					
		鳩祭へ向けて「一斉係会」3回実施。例年と異なる状況へ対応するために「正副鳩長と係職員の打ち合わせ会」を週1回実施。 新正副係長選出後鳩祭へ向けて正副係長会3回実施し鳩祭テーマ決定。 来年度へ向けて正副鳩長と係職員の打ち合わせ会を週1回実施。	感染が拡大する中で、打ち合わせの回数を増やし、感染者を出すことなく安全な鳩祭を実施することができた。来年度の鳩祭での一般公開へ向けて、新役員との打ち合わせ会を実施し、内容・対策の検討を始めている。					
生徒一人ひとりが、生き生きとした活動を行うことができたか。	6月「春季クラスマッチ」通常日程で開催。7月「鳩祭」を校内公開の通常日程で開催。9月「秋季クラスマッチ」通常日程で開催。 12月 稲荷山養護学校との交流会を2年ぶりに実施。	稲荷山養護学校との交流会はコロナ対策に注意して準備・運営をすることで、役員同士の人間関係形成や鳩祭へ向けての良い交流ができた。 コロナ対策に注意して準備・運営をすることで、生徒会活動が例年に近い形で実施できた。全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。						
全体	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	・2～4棟ワックスがけ(10月29日,11月5日)・モップ交換(11月2日) ・落葉清掃特別週間(11月)・清掃用具補充3回職員・生徒によるゴミステーション当番(毎日) 定期的な「清掃用具点検」の実施。2か月毎「補充」を施行。毎日「当番活動」「呼びかけ」を実施。(厚生) 必要な清掃用具の整備。(中学)	生徒会と連携して生徒のゴミ分別の意識づけを行った。生徒会と連携し、用具の点検、補充を継続させたい。後期は落ち葉等の外掃を充実させることができた。(厚生) ワックスがけ等の諸活動によく取り組み、ゴミステーションでの活動は分別の意識づけにつながった。(厚生) モップ交換の際、スベアが足りなくなったので、次年度は、①スベアを購入、②交換区域を分け、1回の交換枚数を少なくする等の対策をとる。(厚生) 必要な清掃用具を係の先生にお願いして不足なく使用できた。6校時から清掃時間への切り替えをしっかりとできるよう指導していきたい。(中学) 学年職員が協力して、指導にあたった。さらに校内美化の意識を高める必要性を感じる。(中学) 時間いっぱい清掃活動に取り組めるよう、活動計画の確認を大切にしたい。(中学)	17	37	11	77.3	
令和3年度 新型コロナウイルス感染症予防についての取り組み 【全体での取り組み】 ・生徒は健康チェックカードへ記入し、担任は朝のSHRで健康観察を実施 ・学校全体の授業や行事を三密にならないよう工夫し、個々でも行動に注意 ・マスクの着用の徹底 ・こまめな手洗いや手指のアルコール消毒の心がけ、意識の向上 ・教室の換気(扇風機の有効活用) ・清掃時に大勢が触る箇所の消毒作業 ・黙食の取り組み 【保健委員の活動】 ・放送で、手洗い、昼食時の注意、換気促進等の呼びかけ ・ハンドソープと消毒用アルコールの補充 ・授業や休み時間の積極的な換気 ・クラスマッチや文化祭等の行事での消毒作業 ・保健だよりを使った啓発活動。中学生はデジタル保健だよりで昼食時に配信 【購入品】 ・ハンドソープや消毒用アルコール、次亜塩素酸ナトリウムや衛生用品を十分確保 ・非接触性体温計や普通の体温計を大量購入し、行事や班活動などに有効活用 ・全部のトイレや流しの一部の蛇口を自動水栓化 ・体育館へ大型扇風機の設置 ・アクリル板 ・パルスオキシメータ ・空気清浄機(保健室) など 【その他】 ・強制はしていないが、各家庭の判断で予防接種を受ける生徒も大勢いる。		日常の学習活動から班活動まで、すべての活動で感染症予防に取り組み、今年度は学校内で感染拡大をさせることなく学校の活動を行うことができた。来年度も引き続き感染拡大防止の意識を持続し、また設備や物品面もさらに充実させて、生徒が安心して学習活動や班活動に取り組める環境を整えていきたい。						

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点となるように換算しました。【換算式】25×(4点×Aの数+3点×Bの数+2点×Cの数+1点×Dの数)÷総数